

## THE ROTARY CLUB OF KARIYA



Weekly



創立 1954年 3月 8日  
承認 1954年 3月 30日

例会日時 毎週月曜日  
12:30 ~ 13:30  
例会場 刈谷市新栄町 3 の 26  
刈谷商工会議所内  
事務所 TEL <0566>22-2111  
FAX <0566>25-2111  
メール kariyarc@katch.ne.jp  
ホームページ http://www.kariya-rotary.com  
会長 岡本 巧  
幹事 神野 公秀  
会報委員長 兵藤 文男

2009 ~ 2010年度 国際ロータリー John Kenny (ジョン・ケニー) 会長テーマ

The Future Of Rotary Is In Your Hands ロータリーの未来はあなたの手に

(この会報は、地球環境保全に考慮し再生紙を使用しています。)

## 第2650回例会プログラム

[当年度=10回目; 当月=1週目]

2009年(平成21年) 10月 5日(月)

## 1. 例会……………〈司会：プログラム委員会〉

- 12:28 1. チャイム  
12:30 2. 点鐘……〈会長〉  
3. 開会宣言  
4. 国歌斉唱  
5. ロータリーソング斉唱……奉仕の理想  
6. 講師・ゲスト並びにビジター紹介  
7. 食事
- 12:45 8. 会長挨拶並びに会長報告  
9. お祝い  
(誕生日祝・結婚記念日祝・入会記念日祝)  
10. 幹事報告  
11. 出席報告  
12. 委員会報告  
13. ニコニコボックス報告  
14. 次週並びに次々週のプログラムの予告  
(10/12) ……休会(法定休日)  
(10/19) ……クラブ協議会  
ガバナー補佐訪問  
※第1四半期皆出席表彰  
(出席委員会)

## 2. クラブフォーラム……………〈米山奨学委員会〉

- 13:00 卓話「台湾の紹介」  
講師 米山奨学生 黄 耀儀 様  
(紹介者 毛受 豊 会員)
15. 謝辞  
16. 点鐘……〈会長〉  
17. 閉会宣言
- 13:30 18. 散会

## ビ ジ タ ー

伊藤 敦夫 様 (豊田中 RC)  
寺部 暁 様 (安城 RC)

## 出 席

会員総数 94名 出席免除 25名  
出席義務者+免除者の内例会出席者 85名  
欠席 7名 出席率 91.76%  
前々回(9/14)の修正出席率 100%

## 幹 事 報 告

1) 次週10月12日は法定休日にて休会です。次々週10月19日は石原健一ガバナー補佐訪問となります。理事・役員・委員長・新入会員の皆様は13:40からクラブ協議会がありますので、年次計画書をご持参の上、ご出席をよろしくお願い致します。

## 会長あいさつ

## いよいよ10月です

岡本 巧



新型インフルエンザがどんどん流行しています。予防は手洗い・うがいを行うことが一番始めです。もし罹ってしまったら、本人は完治し医師の了解を得てから入社・出校。家族が罹ってしまったら、完治してから2日目から入社・出校することだと、保健所から伺いました。

私共の会社では、朝熱が37.5℃以上あったら入社せずに病院へ行くことにしています。手洗い・うがいを最近実行している人が増え、本年は食中毒が少なくなったとも言われています。

余談ですが、世界中で予防処置が取られておりますが、困ったものがキス及びハグの自粛・禁止です。皆さん気をつけてください。

## お 祝 い

### 傘寿のお祝い



坂 茂 会員

### 銀婚式のお祝い



兵藤 文男 会員

### 水晶婚式のお祝い



深谷 稔彦 会員

10月の会員の誕生日…坂茂、太田保、野村重彦、堀正剛、内藤耕造、大音祖瑛、深谷稔彦、加藤恒治、鈴木光彦、塚本幸夫、高橋徹治会員。

配偶者の誕生日…三ツ松祐子（芳隆）、羽田孝子（育哉）、加藤多津枝（哲也）、下谷裕子（敏朗）、出口うつみ（達也）様。

結婚記念日…石原鈞、坂茂、太田保、鬼頭勝彦、大音祖瑛、堀正剛、盛田豊一、前田孝司、鈴木辰男、杉浦世志朗、内藤正、太田宗一郎、佐久間正人、加藤真治、酒部正博、兵藤文男、横山宜幸、井元良彦、女鹿晋輔、渡部雅之、南健、深谷嘉英、深谷稔彦会員。

10月度入会記念日…市川裕士、大竹憲治、吉原孝彦会員。

## クラブフォーラム

### 卓話 台湾の紹介

#### －台湾の元宵節祭典 光と火の世界

米山奨学生 黄 耀儀 様



今回の卓話は、台湾と言えば、おいしいものと言う既定印象と異なる台湾の一面を紹介したいと思います。それは台湾の元宵節の祭りです。台湾では古くより旧暦の1月15日にあたる日を新年（旧正月）ではじめての満月を迎える日として「元宵節」（小正月）とよび、毎年この日は台湾各地の寺廟などでは趣向を凝らした色とりどりのランタンを飾り、お正月のクライマックスを盛り上げてきました。各地において、ランタンを中心とする様々なイベントを行って、光と火で、お正月（旧暦）の終わりを迎えます。今回の内容は、「元宵節」のランタンをテーマにして、三大のランタン祭りである「台湾ランタンフェスティバル」、「平溪天燈」、「鹽水蜂炮」を紹介します。

#### 一、台湾ランタンフェスティバル

台湾観光局によって1990年に台北市中正紀念堂で開催されて以来、台湾ランタンフェスティバルは元宵節には欠かせない大切なイベントとなっています。この活動の正式ホームページによれば、「民俗文化根、伝統国際化（風習文化に根ざし、伝統を世界に広めよう）」を合い言葉に、1990年より開催され続けている元宵節の「台北ランタンフェスティバル」。元宵節にランタンを掲げる伝統風習イベントを、地元根ざした伝統、ハイテク、国際化の理念をこめてスケールの大きい観光イベントとなって以来、国内各地で反響を受け、いまや元宵節のランタンフェスティバルは全国的な祝賀イベントとなっています。「台湾ランタンフェスティバル」はその中でも抜きん出た、国内外でも著名な祝賀イベントとなっています。

#### 二、平溪天燈祭り

平溪は、台北の東南にあって基隆河の上流の小さな山間の町です。この平溪で、毎年行われているのが「天燈」というお祭りで、願い事を書いた紙製の提灯を空に浮かべるものです。日本語では「紙風船」。天燈は孔明燈とも言われている。中国の三国時代に諸葛孔明が軍情を伝えるために、あるいは夜空に提灯を上げて敵軍を混乱させようとするために発明されたものである、という話があります。後に、天燈は節句における祈禱儀式的用具となっている。

#### 三、鹽水蜂炮

鹽水蜂炮は毎年元宵節に台南県鹽水鎮において開催されるイベントです。清の時代に鹽水地区は内陸港として栄えていたが、近代において川に土砂が積もり、浅く

なってしまったことから内陸港としての機能を失ってしまいます。民衆たちは、鹽水鎮最大の信仰の地である武廟の神、關聖帝君に救いを求めます。そして旧暦1月15日の元宵節の夜、關聖帝君を乗せた神輿が担ぎ出され、人々はその後に続き、疫病払いを祈りながら爆竹を放ち、街を回りました。これは明け方まで続けられたとされています。

以後、毎年この時期になると、關聖帝君を崇め、厄払いをするようになりました。当初は付近の住民が元宵節の前後3日間に爆竹を鳴らし続けるという内容だったのですが、そのうち村ごとに順に爆竹を鳴らすようになり、今日では蜂炮と呼ばれるロケット爆竹を放つようになっています。その故、鹽水蜂炮は台湾の元宵節では最も刺激感を味わえる祭典と言われています。

皆さん、是非一度、台湾の元宵節祭典を体験してみてくださいね。